

▲作品 1965年 ▼菊 1931-32年頃



清らかな詩心をつらぬく造形の軌跡

# 吉原治良の世界

発見！

大阪市立近代美術館(仮称)  
コレクション展'98

1998年9月13日回—11月15日回

- ◆9月23日[祝]をのぞく水曜日は休館
- ◆11:00a.m.—6:00p.m.(入館は5:30p.m.まで)
- ◆主催=大阪市教育委員会、ATCミュージアム
- ◆後援=財団法人大阪21世紀協会、財団法人大阪都市協会、読売新聞大阪本社、  
読売テレビ

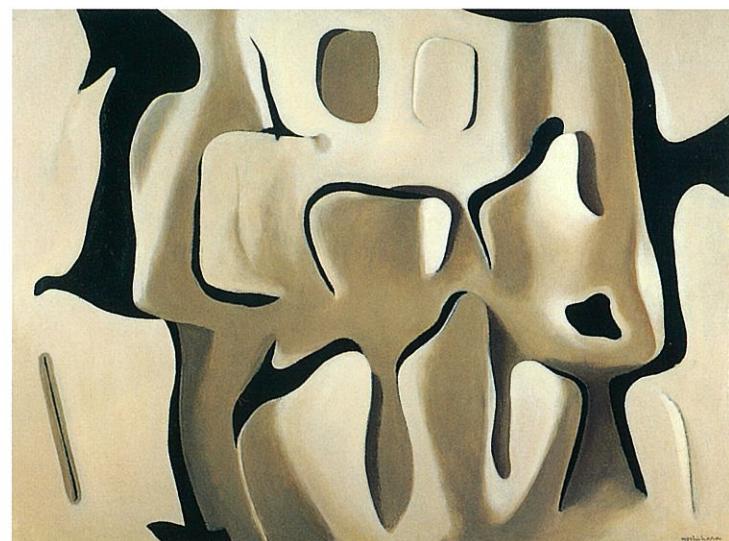
ATCミュージアム

アジア太平洋トレードセンター(ATC) O's南  
大阪市住之江区南港北2-1-10 ☎06-615-5006

日本前衛美術の先駆者であり、戦後は「具体美術協会」を率いて国際的にも注目される美術運動を展開した吉原治良は、日本の20世紀美術でも屈指の存在と言えましょう。大阪市立近代美術館建設準備室は、その作品多数を所蔵しておりますが、そのうちから約130点をよりすり、吉原治良の創造の軌跡をたどります。

1905年、大阪淀屋橋南詰めに生まれた吉原は、府立北野中学・関西学院で学業を修めるかたわら、油絵に興味をもち制作を始めました。独学で「艸園会」展などに参加、やがて移転先の芦屋に在住していた画家上山二郎に感化を受け、1928年大阪朝日会館の個展に魚を描いた作品などを発表して注目を浴びました。家業の植物油製造・卸業を継いだ後も芸術への意欲は衰えず、藤田嗣治の推薦で1934年

## Jiro Yoshihara 1905-1972



の第21回二科展にシュルレアリスム風の作品を出品、鮮烈な画壇デビューを果たすと、その後幾何学的抽象へと作風を開拓し、1938年には二科会の同志と「九室会」を結成するなど、戦前の前衛美術運動の旗頭のひとりとなりました。

戦中・戦後の暗い世相の中で、吉原の絵画も人間がテーマになりますが、1950年代に入ると再び非具象に転じ、芦屋市展や現代美術懇談会(ゲンビ)での活動を経て、1954年具体美術協会の結成に至ります。1972年、67歳で急逝するまで、具体美術展は21回を数え、吉原はグループの主宰者として前衛美術運動の発展に多大な貢献をするとともに、自ら優れた仕事を発表し続けました。今日のパフォーマンスを先取りする実験や、国際的なアンフォルメル運動に連なる絵画表現を日本から発信し、晩年は単純な円や漢字の部首の造形要素を、細心で明快な平面に展開しました。こうした吉原治良の仕事は、今日国内はもとより国際的にも高い評価を受けています。

このたびの展覧は代表作に加え、没後はじめて公開される作品約70点を含んでおり、吉原治良の優れた仕事を新しい視点から回顧する絶好の機会となるでしょう。

## 大阪から世界へ：明日の美術を問い合わせた画家



- ①「朝顔と犬」1931-32年頃
- ②「嬉しい日の少女」1949年
- ③「作品」1936-37年頃
- ④「作品A」1964年
- ⑤「作品B」1955年

### ◆観覧料

一般500(400)円、高大生300(200)円  
( )内は前売・20名以上の団体料金

\* 中学生以下は無料  
\* ツールのマーク付き健康手帳・敬老優待乗車証または身体障害者手帳等をお持ちの方は無料  
\* 前売券はチケットぴあ、チケットセゾン、阪急ブレイガイド、阪神ブレイガイド、京阪交通社、大阪市内地下鉄商店などでお求めになれます。

### ◆パネルディスカッション

〈吉原治良と20世紀の美術〉  
河崎 晃一氏(芦屋市立美術博物館)  
尾崎信一郎氏(京都国立近代美術館)  
平井 章一氏(兵庫県立近代美術館)  
司会:熊田 司(近代美術館建設準備室)  
10月31日[土] 2:00p.m.-4:00p.m.  
アジア太平洋トレードセンターDホール  
聴講無料

◆学芸員によるミュージアムトーク  
毎週土曜日、日曜日 2:30p.m.より  
(10月31日をのぞく)



**ATC**  
ASIA AND PACIFIC TRADE CENTER

アジア太平洋トレードセンター  
大阪市住之江区南港北2-1-10  
☎ 06-615-5006